



～ 夢ひとすじに～

# 宮原中だより

自ら学び 心豊かに たくましく

平成 29 年度 第 11 号  
平成 29 年 3 月 1 日 (水) 発行  
さいたま市立宮原中学校

メールアドレス

miyahara-j@saitama-city.ed.jp

ホームページアドレス

<http://miyahara-j.saitama-city.ed.jp/>

## 『 あすなろ「明日は檜 (ひのき) になろう」 ! 』

—卒業・進級に向けて—

校長 小林 広利

井上 靖 の小説に「あすなろ物語」がある。翌檜 (あすなろ) という木は、檜 (ひのき) によく似ている。小説では、天城山麓の小さな村で、血のつながりのない祖母と二人で暮らす13歳の鮎太(あゆた)が主人公である。青春時代を北国で過ごし、長い大学生活を経て新聞記者となる。その間に知り合う数人の女性との交流を軸に人生が描かれていく。何者かになろうと夢を見て、自分を見出そうとする鮎太は、冴子(さえこ)が説明してくれた あすなろの木 についての次の言葉を思い出す。

**「(あすなろの木は、) あすは檜 (ひのき) になろう、あすは檜になろうと一生懸命考えている木よ。でも、永久に檜にはなれないんだって! それで あすなろう (あすなろ) というのよ」**

私は、この「あすなろ」という言葉には思い出があり、大好きな言葉の一つである。私が受験を控えていた学生時代の数学の先生が「あすなろ数学」と銘打って授業をしてくれた。楽しい授業だった。あきらめそうになる気持ちを助けてくれた。そして数学が好きになった。

「何になれるか分からない、でも何かになりたいと思うことが大切なこと。翌檜 (あすなろ) も檜 (ひのき) になれるか自分では分かっていない。しかし、夢中で檜になろうと努力する。この努力が、重要なこと」と教えてくれた。

また、笠 信太郎 の「ものの見方について」のくだりに、次のジョークを引用する一節がある。

**「イギリス人は歩きながら考える。フランス人は考えた後で走りだす。そしてスペイン人は走ってしまっただ後で考える。」**

イギリス人は思考を繰り返しながら行動し、フランス人はじっくり考えてから行動し、スペイン人はまずはやってみようということだろうか。本の中で、作者はイギリス人の物の見方に共感しているのだが、1950年の本なので、今の国民性に当てはまるかは別にして、若い人たちには、当時のスペイン人のものの見方が似合うかもしれない。多少の失敗は勉強のうちと考えて、これからは、自分で判断し何事にも積極的に挑戦していく姿勢をもち、夢に向かって夢中で努力を続けてほしいものだと思う。

さて、3月15日は、宮原中学校第70回卒業証書授与式が行われます。3年生は、この1年間で宮原中学校のよき伝統を継承し、あいさつが飛び交い、歌声が響き、花の咲き誇る学校を創り上げてくれました。体育祭・駅伝競走大会・部活動などでは、リーダーとして下級生をひっぱり、修学旅行や合唱コンクールでは、学級の絆の素晴らしさを示してくれました。また、宮原まつりをはじめ地域行事にも積極的に参加し、地域の方々に多くのことを教えていただきながら、地域へも貢献できたものと思います。2年生・1年生も、3年生のよい点を引き継ぎ、授業、行事、部活動などで頑張る生徒がたくさんいます。年度末の学校評価アンケートでは、「中学生としての自信と自覚ができましたか」の問いに「そう思う」「大体そう思う」と答えた生徒が94.3%、保護者が88.7%に達しました。これは生徒・教職員・保護者・地域の皆様が一体となって教育活動を推進・協力いただいた証と感謝しております。保護者・地域の皆様には、1年間本当にありがとうございました。今後とも、宮原中学校の教育活動にご支援・ご協力をお願い申し上げます。

最後に、この1年間を振り返り、生徒の皆さんに次の言葉を贈ります。「**努力は、決して人を裏切らない。**」あすなろの木のように、夢と希望に向かって、がむしゃらに努力してみることは、本当に大切なことだと思います。これからも自分を信じ、一步一步進もうではありませんか。